

仙台藩茶道石州流清水派の祖 三世清水道竿の業績(その一) 道竿の経歴と人脈



仙台藩茶道石州流清水派宗家

十世 大泉 道 鑑

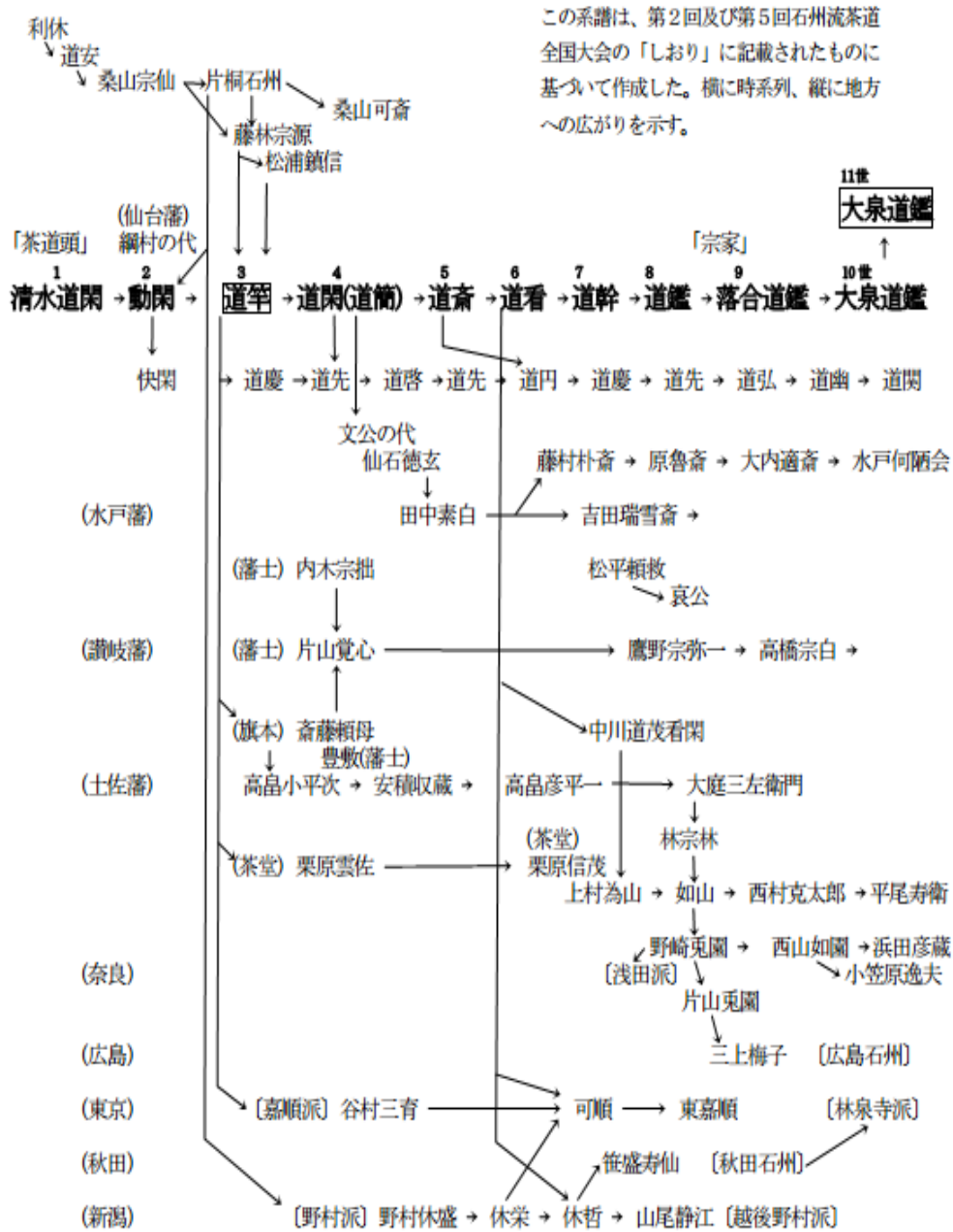
三世清水道竿(寛文二年〜元文二年―一六六二〜一七三七)は、仙台藩茶道石州流清水派を藩内に確立させると共に、その流儀を全国各藩に広め、それが日本各地で今日まで受け継がれて来ている(石州流清水派の系譜参照)。この様に道竿は、石州流の普及・発展に多大な貢献をしたことは承知の事実である。そこで、道竿の業績について紹介してみたい。最初に、道竿の経歴と人脈について述べながらその功績にふれる。

道竿(通称さおどうかん)は、仙台藩土馬場相薫の子で、前名を馬場道斎と言ひ、名を釣玄、耕閑子と号した。道竿は、

仙台藩茶道頭二世清水動閑(慶長一九年〜元禄四年―一六一四〜九一)に弟子入りし、茶道の研鑽を積んで、弟子の中で最も傑出した人物に成長を遂げていった。動閑没後間も無い元禄五年(一六九二)正月二三日に、四代藩主伊達綱村公(万治二年〜享保四年―一六五九〜一七一九)から、その後継者に指名され、動閑の知行のうち五貫文、判金五枚、四人扶持を受け継ぐと共に清水の姓に改めた。この時、なぜ動閑の嫡子清水静井(後の快閑)ではなく、道竿が指名されたのであろうか。この経緯については、伊達家の正史として編纂された「伊達家治家記録」のなかの綱村公の時代の「肯山公治家記録」同年正月二二日条にも詳細に記されている。そこから、弟子の中で道竿の実力が群を抜いていたことが最大の要因であったことが、容易に窺い知ることが出来る(1、2)。

また、同年二月二五日には茶道頭に任命されて五貫文加増され一〇貫文となり、さらに五代藩主伊達吉村公(延宝八年〜宝暦元年―一六八〇〜一七五二)の時代の宝永元年(一七〇四)六月にも五貫文加増されて一五貫文に達した。

石州流清水派の系譜



元禄五年（一六九二）正月二二日には綱村公の命により、道竿は石州流鎮信派の祖肥前平戸藩主松浦鎮信公（元和八年～元禄一六年―一六二二～一七〇三）に師事し、秘事台子を全て伝授された（1、2）。ところで、石州流の祖片桐石見守貞昌（石州）公（慶長一〇年～延宝元年―一六〇五～七三）の没後、動閑、石州流怡溪派の祖怡溪宗悦（正保元年～正徳四年―一六四四～一七一四）及び桑山可斎（慶長一八年～元禄一三年―一六一三～一七〇〇）などの石州公の高弟達は、石州流宗源派の祖である片桐家家老藤林宗源（慶長一三年～元禄八年―一六〇八～九五）に茶湯伝授の道を問うていた。可斎は、綱村公とは入魂の間柄でしばしば茶会に招待されていた。「鎮信公の師である宗源から直接伝授してもらったことが最も慥かである」という可斎からの進言もあつて、綱村公は伝授の依頼の書状をしたため、これを道竿に持たせ、大和国小泉（現奈良県大和郡山市小泉）の宗源の元に差し向けた。この様にして道竿は君命により、宗源に直接師事することに成り、そこで茶道の修行に励んで遂に目出度く数寄伝授及び印可を受け（3～5）、元禄八年（一六九五）二月一三日に

無事仙台へ帰任した（1）。一方、宗源は、この時すでに八歳の高齢で、道竿に伝授を授与したのもつかの間、元禄八年三月八日に亡くなった。石州公没後、石州流の第一人者となった宗源の存命中にろうじて伝授を受けることが出来たのは、可斎の助言のお陰であり、実に幸運に恵まれた出来事と言えよう。

道竿は、全国的にも名高い数寄大名で、特に茶道に造詣が深かった綱村公の茶道の指南役という重責を果しながら、茶道の修行に励んでその奥義を極め、さらに新しい作意を加えてここに石州流清水派を開いた。道竿は、勿論その一世と称しても良いと思われるが、仙台藩茶道の茶道頭二世動閑の跡を継ぐ者として三世と称した（6）。石州流清水派の流儀は、これ以降変わることなく一〇世の私の代まで代々継承されてきた（石州流清水派の系譜参照）。

以上述べた様に道竿は、名実共に仙台藩茶道頭の頂点を極め、綱村公及び吉村公の二代に亘って藩主の茶道師範という大役を見事に果し、名声をほしいままにしたのである。道竿は、元文二年（一七三七）六月晦日没した。享年七六。法名

は心齋道竿釣玄居士。三世道竿から八世清水道鑑（天保一一年〜明治四五年―一八四〇〜一九二二）までの歴代の宗匠が眠る墓は、仙台市青葉区新坂一三―一昌繁寺に在る。なお、平成二〇年八月三〇日に仙台藩茶道石州流清水水道門会の私の弟子達が集まって、第二〇回全日本石州流茶道協会仙台大会（平成二〇年五月一七・一八日）が盛会のうちに無事終了したことをこの墓前に感謝を込めて報告した（写真1、2）。

参考文献

1. 「青山公治家記録」 仙台市博物館蔵
2. 「清水動閑註解石州流三百箇條付仙台藩茶道」 十世大泉道鑑 丸善出版サービスセンター 昭和五五年
3. 「石州流系図写并聞書ノ写」 鈴木政通 寛文六年 東京国立国会図書館蔵
4. 「数寄秘密相伝」 伊達綱村 仙台市博物館蔵
5. 「数寄道心法」 東京国立博物館蔵
6. 「原色茶道大辞典」 井口海仙、末宗広、永島福太郎監修 淡交社 昭和五〇年



写真1. 3世清水道竿の墓



写真2. 3世道竿から8世道鑑までの歴代の宗匠の墓前に仙台大会の報告をしている弟子達